

新生児聴覚スクリーニングは 99%の方が受けている検査です

～きこえの検査をうけましょう！ きく→まねる→ことばを話す～

「きく」ことのつながり

従来、赤ちゃんがきこえているかどうかは、生活の中では気づかれず、2～3歳になっても話し出さないことで発見されていました。しかし、0～3歳までのきこえがことばの発達に大切であるため、2002年頃から「新生児聴覚スクリーニング」ですぐに赤ちゃんのきこえを検査するようになりました。

早く発見（0歳から）されることで、早期の対応が行われます。早期治療をおこなうことで、ことばの発達の遅れを防ぐことができます。

赤ちゃんの聴力は、妊娠28週頃からきこえはじめ、生後3か月頃から聞きなれた人の声の違いがわかり、生後6か月頃から名前で振り向くなど意味がわかり、生後10か月以降は声をまねるようになります。

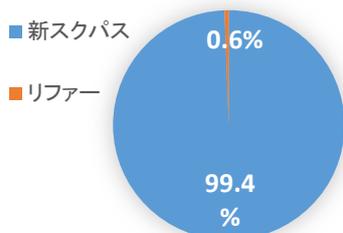


新生児聴覚スクリーニングとは

新生児聴覚スクリーニングは、出産後、退院までに行います。赤ちゃんが眠っている間に機械で音を聞かせて脳波を調べます。数分間で行える検査で、赤ちゃんは何の痛みも感じませんし、副作用もありません。



千人に1人「きこえにくさ」があります



先天性難聴の赤ちゃんは、1,000人に1～2人とされています。先天性代謝異常のフェニルケトン尿症の赤ちゃんが60,000人に1人と比べても、少ない病気ではありません。

また、この検査で「パス」でも、稀にあとから難聴になることがありますので、きこえやことばについて関心を持ち、心配なことがありましたら医師や保健師にご相談ください。

長野県難聴児支援センターは、保護者支援の拠点として設立されました。

※電話や来所のほか、関係機関への同伴訪問やご自宅への出張相談も致します



両親ともに難聴がなく、兄弟も新
スク検査でパスだったので、今度
の赤ちゃんは検査を受けなくても
いいですか？



生まれてくる全ての赤ちゃんに
新生児聴覚スクリーニング検査
をお薦めしています。

難聴の主な原因は

- ・遺伝子によるもの
- ・先天性のウイルス感染
- ・原因不明のもの

とわれています。遺伝子の場合でも
ご家族に難聴の方がいらっしゃらない
赤ちゃんが難聴であることが多いため
検査をお薦めします。結果、「きこえ」
に不安をもたずに育児することにもつ
ながります。



リファア（要再検査）と言われた
ら、「難聴」ということですか？
再検査で「パス」することもあり
ますか？



「再検査」という結果は、すぐ
に耳が聞こえていないと判断で
きるものではありません。

「今回の検査では『ささやき声程度』
の音に反応しなかった」ということ
ですので、時間をおいてさらに詳しく調
べましょうという意味になります。

また、再検査で「パス」と言われる
方もいます。最初のスクリーニングで
は1000人のうち5～6人の赤ちゃん
が再検査を勧められますが、実際に難
聴の治療が必要な赤ちゃんは、1000
人に1～2人とされています。
（その後の中耳炎やおたふくなどきこ
えが変化する場合もあります）



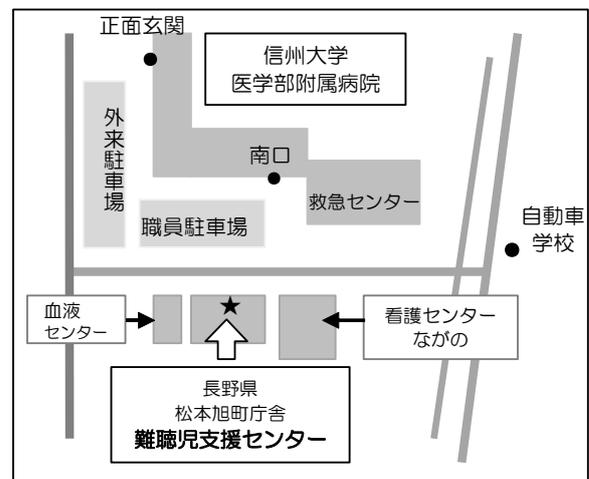
まだ難聴の診断が確定していな
きこえに何となく不安がある、と
いう時でも相談できますか？



はい。お父さんお母さんの悩み
や戸惑いが赤ちゃんに伝わるこ
とが一番心配です。

- ・確定診断される前
- ・片耳、軽度難聴
- ・もう少し「難聴」について知りたい
- ・両親そろって話が聞きたい
- ・診断を聞くときに付き添って欲しい 等

なんでもお気軽にご相談下さい。
子どものきこえとことばについて一緒
に考えるのが当センターの役割です。



お気軽にご相談ください

<申込み・お問い合わせは>

長野県難聴児支援センター
療育支援員

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階